

科目名 (科目番号)	物理療法学実習 (時間割参照)	教員名	深谷隆史 沼尾夏葵	学科等	理学療法	必修	履修年次	3
				曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
				授業形態	演習	オフィスアワー	木3・A310研究室	
授業概要	物理療法の基本的理論を理解し、各種物理療法機器を対象者の安全に配慮して正しく操作できるように各種物理療法に関して、学生グループ内で治療者と患者の役を演じ実習を行う。また各種測定機器を用いて生体に起こる反応を測定し、物理療法の効果を定量的に判定する。							
目的・目標	目的:対象者の安全に配慮して物理療法機器を実際に操作し、生体反応や効果について学ぶ。 目標:①各種測定機器を用いて生体に起こる反応を測定し、物理療法の効果を定量的に判定することができる。 ②症例に即した物理療法を選択することができる。							
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	電気刺激療法	到達目標:電気刺激療法概要・原理・適応・禁忌・使用方法について理解する。 学習内容:電気刺激療法の概要・原理・使用方法について学習する。					
	2	牽引療法	到達目標:牽引療法概要・原理・使用方法について理解する。 学習内容:牽引療法の概要・原理・使用方法について学習する。					
	3	各種物理療法機器の効果判定1	到達目標:各種物理療法機器を対象者の安全に配慮して正しく操作し、物理療法の効果を定量的に判定することができる。 学習内容:学生グループ内で治療者と患者役を演じ、各種測定機器を用いて生体に起こる反応を測定し、物理療法の効果を定量的に判定する。					
	4	各種物理療法機器の効果判定2	到達目標:各種物理療法機器を対象者の安全に配慮して正しく操作し、物理療法の効果を定量的に判定することができる。 学習内容:学生グループ内で治療者と患者役を演じ、各種測定機器を用いて生体に起こる反応を測定し、物理療法の効果を定量的に判定する。					
	5	各種物理療法機器の効果判定3	到達目標:各種物理療法機器を対象者の安全に配慮して正しく操作し、物理療法の効果を定量的に判定することができる。 学習内容:学生グループ内で治療者と患者役を演じ、各種測定機器を用いて生体に起こる反応を測定し、物理療法の効果を定量的に判定する。					
	6	症例検討1	到達目標:具体的な症例を設定し、運動療法と物理療法を関連付けた模擬治療計画を立案することができる。 学習内容:運動器疾患の模擬症例から、問題点の抽出・治療プログラムの立案・物理療法の選択・リスク管理について学ぶ。					
	7	症例検討2	到達目標:具体的な症例を設定し、運動療法と物理療法を関連付けた模擬治療計画を立案することができる。 学習内容:運動器疾患の模擬症例から、問題点の抽出・治療プログラムの立案・物理療法の選択・リスク管理について学ぶ。					
	8	症例検討3	到達目標:具体的な症例を設定し、運動療法と物理療法を関連付けた模擬治療計画を立案することができる。 学習内容:運動器疾患の模擬症例から、問題点の抽出・治療プログラムの立案・物理療法の選択・リスク管理について学ぶ。					
成績評価の方法・基準	対面時:授業内レポート(100%) オンライン時:課題レポート(100%)							
教科書	PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける 物理療法 第2版			庄本康治		羊土社		
参考図書								
教員からのメッセージ	授業内で小レポートを行います。小レポートはコメントを付して授業内で返却します。 総合病院、クリニック等で勤務した理学療法士がこの授業を担当します。 オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知いたします。							